

遺骨10柱収集、帰国

インドネシア沖 旧日本軍艦艇から

インドネシア・スラウェシ

島(旧セレベス島)南部マサツカル沖で第2次大戦中に撃沈された日本軍の第11号掃海艇から、厚生労働省の遺骨調査・収集団が遺骨10柱を収集し、持ち帰った。遺族として調査団に参加した福岡県大牟田市の笠原美代さん(82)は、死亡した他の乗組員218人の遺族たちにも「連絡してほしい」と呼びかけている。

調査団は6月21日と7月1日に現地入りし、大腿部や肋骨などが見られる骨二十数本を収集した。インドネシアの医師の鑑定の結果、日本人9人の遺骨と判定された。

調査団は先に見つかった頭蓋骨を含め10柱の遺骨を焼骨して遺灰を持ち帰った。同省によると沈没船からの遺骨収集は14年ぶりという。

笠原さんは「兄がどのよう

に死んだかを確かめたい」と思ってきたが、05年12月ごろ情報もたらされた。沈没現場の海底に船体らしいものがあり、遺骨が散乱し、地元住民らが鉄骨を解体して持ち去

← 7/16 14版

旧日本軍艦艇から遺骨10柱収集

インドネシア・スラウェシ島旧セレ

ベス島 南部マサツカル沖で第2次大戦中に撃沈された日本軍の第11号掃海艇から、厚生労働省の遺骨調査・収集団が遺骨10柱を収集し、持ち帰った。

遺族として調査団に参加した福岡県大牟田市の笠原美代さん(82)は、死亡した他の乗組員218人の遺族たちにも「連絡してほしい」と呼びかけている。

調査団は先に見つかった頭蓋骨を含め10柱の遺骨を焼骨して遺灰を持ち帰った。同省によると沈没船からの遺骨収集は14年ぶりという。

笠原さんは「兄がどのよう

に死んだかを確かめたい」と思ってきたが、05年12月ごろ情報もたらされた。沈没現場の海底に船体らしいものがあり、遺骨が散乱し、地元住民らが鉄骨を解体

「乗組員218人の遺族、連絡を」

インドネシア沖で沈没

14版

7/19訂正記事

訂正
16日付「遺骨10柱収集、帰国」の記事で、インドネシアの地名と港名が「マサツカル」とあるのは「マカツサル」の誤りでした。訂正します。

し持ち去っているというものだった。

調査団は6月21日と7月1日に現地入りし、大腿部や肋骨などが見られる骨二十数本を収集。インドネシアの医師の鑑定の結果、日本人9人の遺骨と判定された。調査団は先に見つかった頭蓋骨を含め10柱の遺骨を焼骨して遺灰を持ち帰った。同省によると沈没船からの遺骨収集は14年ぶりという。

笠原さんは「兄がどのよう

に死んだかを確かめたい」と思ってきたが、05年12月ごろ情報もたらされた。沈没現場の海底に船体らしいものがあり、遺骨が散乱し、地元住民らが鉄骨を解体